

輸血部ニュース

広島大学医学部附属病院輸血部 発行：高田 昇

編集：藤井輝久

No.39 2002年2月15日 TEL: 082-257-5580,5582 内線：2940,2942

FAX: 082-257-5584

輸血検査・業務当直制導入に向けて

本院では人員や人件費の問題により夜間・休日に、輸血部による輸血検査・業務が行われていません。そのため、夜間・休日など稼働職員が少ない時間帯に、慣れていない臨床医に輸血検査・業務をお願いするという状況が続いていました。この状態は輸血の安全管理の面から考えて、非常に危険度の高い状態と言えます。

多くの国立大学病院も本院と同じ状況でした。しかし、1 昨年 of 三重大学医学部附属病院における輸血過誤事故をきっかけに、国立大学病院でも輸血検査・業務当直（輸血当直）の導入が図られるようになりました。そして現在では過半数の大学病院で夜間・休日の輸血当直が行われています。

輸血当直を行うにあたり、「誰が行うのか？」「費用はどこから捻出するのか？」という問題が生じます。他大学に目を向けてみますと、前者に対しては、少人数ながら輸血部単独で行っているところ、また検査部と合同で行っているところとあります。後者に関しても、予算化して導入したところもあれば、院内措置で行っているところもあります。

本院輸血部は、検査部のご協力を得て、

緊急検査と合同で輸血当直を行うべく準備をしています。検査部・輸血部合同当直は1 昨年 of 検査部・輸血部合同運営委員会と今年1 月の輸血部運営委員会で承認を得ました。

また費用に関しても、1 月の病院運営会議において、輸血当直の予算化を平成 15 年度予算の本院の最重要要望事項の一つとして、大学本部に提出することが決定されました。

輸血当直は、新病棟オープン時を目指して体制作りを整えています。ご意見、ご要望等あればお寄せ下さい。

輸血部 内線 2 9 4 2 または 2 9 4 5

輸血部からのお願い

採取検体の扱いにご注意を！

2001年2月より、輸血検査（血液型&不規則抗体スクリーニング）は、緊急時を除き自動機器のAuto-Vueにて行っています。それに伴い、輸血登録用検体採取スピッツを全血7mlからEDTA血7mlに変更しました。

EDTAは抗凝固剤で採取血液が凝固するのを防いでいますが、採取後スピッツをよく転倒混和しないと凝固してしまいます。凝固した血液で検査すると、検査機器の故障の原因にもなります。EDTAなど抗凝固剤入りのスピッツで採血した場合には、よく転倒混和するようお願いいたします。

なお輸血部に提出する検体の採血スピッツは以下の通りです。

輸血登録検査（血液型&不規則抗体スクリーニング）	EDTA血（紫）7ml
交差試験*	∧ ^o リン血（緑）2ml*
ウイルス抗体検査（HBV, HCV, HIV, HTLV-Ⅰ）	全血（青）4ml
HCV-RNA検査（定性、定量）	全血（青）4ml
HIV-RNA定量検査	EDTA血（紫）7ml
細胞表面抗原解析	∧ ^o リン血（緑）2ml
輸血副作用検査（抗血小板抗体、抗HLA抗体など）	全血（茶）7ml
HLAタイピング（要予約）	∧ ^o リン血（緑）7ml

*4単位まで、但し2単位増える毎に7ml追加

献血者数の減少、受血者数の増加により、輸血製剤は慢性的な供給不足です。中でも血小板製剤は深刻です。

血小板製剤は10単位が7万円強と他の製剤に比べて高価で、また有効期限が72時間と短いのが特徴です。

血小板製剤をオーダーされた後に不要となったものは、2000年度で453単位にのぼります。この場合輸血部では貴重な輸血製剤の有効利用の観点から、院内の他の患者さんへ転用していますが、それでも年間200万円近くの血小板製剤が廃棄となっています。

血小板製剤のオーダーについて、以下の通り臨床医の方に徹底して頂きたくお願いいたします。

- 1) 必要最小限の製剤量をオーダーする
- 2) 大量（例えば30単位以上）の血小板輸血が必要な場合は、適宜血小板数を測定しながら何回かに分けてオーダーする

「夜間・休日などは何度も血液センターに電話しなければならない」と、ご不満もありませんが、現状をご理解頂き是非ご協力のほどをお願いいたします。

